

第 80 回総会学術大会へのお誘い

第 80 回日本放射線技術学会総会学術大会
大会長 根岸 徹



この度、第 80 回総会学術大会の大会長を仰せつかりました根岸徹と申します。今大会のテーマは『変革の時代を先導する—Leading an Era of Transformation—』としております。これは、大会ポスターにあります。横浜みなとみらい地区から都心に向かう景色を俯瞰して臨み、三羽の鳥の先頭が放射線業界を表し、医療業界を先導していくことをイメージして作成したものです。また、学会場であるパシフィコ横浜に向かう「さくら通り」には文字通り「桜」が満開となっており、来場者をお迎えしております。

さて、私は 2012 年 10 月開催の第 40 回秋季学術大会（保科正夫大会長）、2016 年 4 月開催の第 72 回総会学術大会（小倉明夫大会長）、そして 2021 年 4 月開催の第 77 回総会学術大会（西出裕子大会長）と 3 大会で実行委員長を務めてまいりました。その経験を活かして、参加者に楽しんでいただける総会学術大会となるよう励んでまいりました。また、この実行委員長を務めさせていただいた年は、2012 年はロンドン、2016 年はリオデジャネイロ、そして 2021 年に東京と夏季オリンピックが開催された年でもあります。そうです、2024 年はパリでオリンピックが開催される年でもありますので、そのタイミングで学術大会事業の節目を迎えるというめぐりあわせを私は持っているようです。

私の総会学術大会への拘りは、なるべく発表登録方法や発表方法を変化させないことでした。これは小倉明夫大会長の時の教えでもあり拘りでもありました。それを踏襲し、シンプルに、かつ大胆に時代を変革していく総会学術大会でありたいと考えた次第です。

本大会では、3rd ICRPT (International Conference on Radiological Physics and Technology) を開催いたします。ICRPT は、日本放射線技術学会が先導する最先端の放射線技術学研究を世界に伝えたいという願望から、日本医学物理学会と共同で運営している国際発表大会です。日本放射線技術学会では、国際化を推し進める観点から、総会学術大会の口述発表スライドの全面英語化を 2016 年から推進してきました。しかし 2020 年に発生したコロナ禍により、残念ながら総会学術大会は海外からの発表者や参加者が減ってしまいました。しかし、これまで「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる 2 類相当）」とされていた新型コロナウイルス感染症が、2023 年 5 月 8 日から「5 類感染症」になりました。これにより 2024 年度は規制が解除されてから初めての総会学術大会となり、海外の研究者も増加してくるものと思われまます。また、近年急速に発展を遂げてきている AI (Artificial Intelligence) を活用した国際化も目指し、総会学術大会に変革をもたらす第一歩になるような大会にしていきたいと考えています。日本放射線技術学会の先生方をはじめ学生会員の方々も是非、進化しつつある発表会場に足をお運び頂き、発表風景をご覧いただけますと幸いです。横浜での総会学術大会参加登録者は、昨年は 5,000 人を超え、現地に来られた方も 7 割程度と増えてきつつあります。また、JRC への全体の参加登録者は ITEM 参加者を含め 24,000 人を超えており、限られた会場数のために、昨年は立ち見が多く出るなど問題点も多くありました。そのため、今年度は来場者が特に多くなる金曜日と土曜日にサテライト会場を使用するなど、創意工夫をしながら対処する予定です。なお、今年も Hybrid で教育講演やシンポジウムなどはオンライン配信を行う予定ではございますが、是非とも会場に足を運んでいただき来場者が参加登録者の 8 割を超えるような活気のある総会学術大会となることを願っております。

次に今大会のシンポジウムについてご紹介いたします。JRC 合同シンポジウムとしては、「生成 AI の先にある新しい医療～画像診断をめぐるこれから～」、「放射線診療のイノベーションと産学連携」、「未知の放射線医学を先導する科学技術」の 3 つであり、それぞれ AI がテーマに含まれております。そして日本放射線技術学会のシンポジウムは、「画像評価におけるタスクベースへの期待と課題」、「一般撮影におけるパラダイムシフト」、「医工連携の真髄～異分野融合～」の 3 つを開催します。近年注目の内容ですので、熱い討論を期待しております。さらに、実行委員会企画をはじめ今年度から木曜日にも開催されるランチタイムレクチャーが 18 セッション、各専門部会のシンポジウムや厳選された一般発表など、多くの学術発表が先生方をお待ち申し上げております。

最後になりましたが、私の地元であるこの横浜まで出向いていただき、総会学術大会を楽しんでいただけますよう、心よりお願い申し上げます。